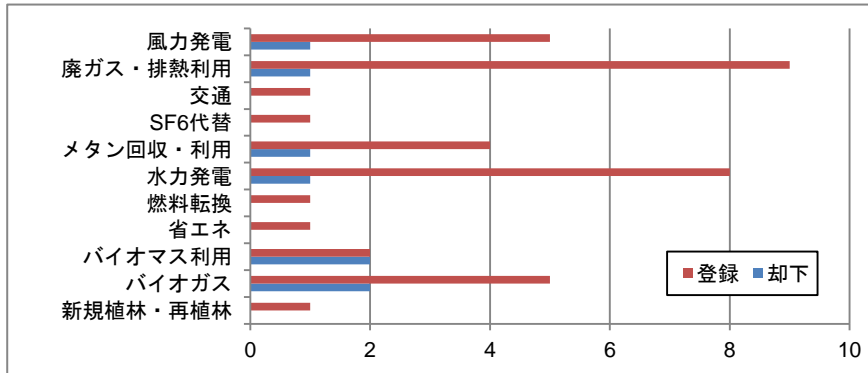


## CDM再審査・却下分析 最近の傾向(EB61-64)<sup>1,2</sup>

### 登録再審査の傾向

CDMの登録再審査要請を受けた後、理事会(EB)(第61回から第64回)にて検討が行われた案件について傾向を分析。最近の傾向として廃ガス・廃熱利用について再審査の指摘が増えている。一方、再審査のプロセスにかかる日数は減少傾向にある。

#### 1. EBでの検討結果概要(プロジェクトタイプ毎)



- ・ EB61 では 11 件、EB62 では 14 件、EB63 では 21 件が検討された。
- ・ 全案件 46 件中 7 件が小規模方法論それ以外は通常規模の方法論(または小規模方法論との組合せ)。

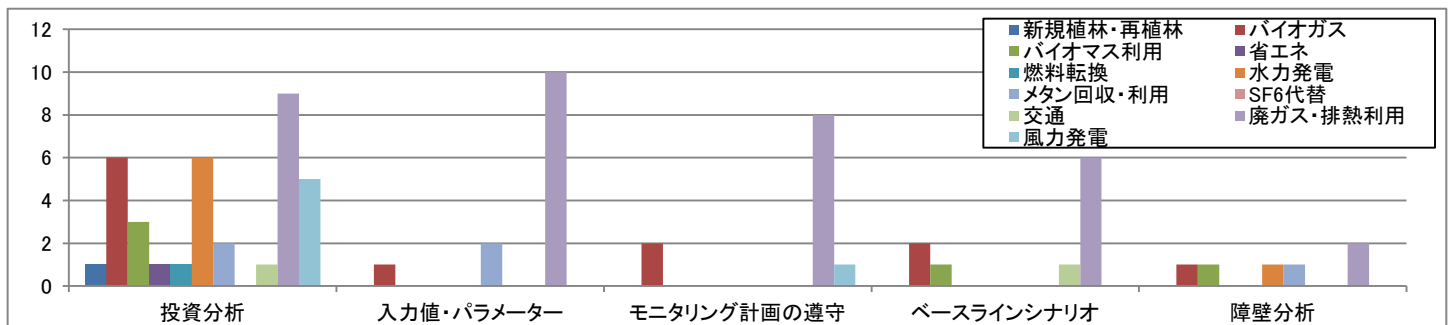
#### 2. 審査に係る日数

|      | 登録申請から再審査要請までの日数 |     |    | 再審査要請から EB での検討までの日数 |     |     |
|------|------------------|-----|----|----------------------|-----|-----|
|      | 平均               | 最大  | 最小 | 平均                   | 最大  | 最小  |
| EB61 | 261              | 407 | 74 | 150                  | 161 | 136 |
| EB62 | 194              | 392 | 65 | 161                  | 193 | 129 |
| EB63 | 154              | 483 | 69 | 147                  | 175 | 93  |

- ・ 登録申請から再審査要請までの平均日数は減少してきている。
- ・ 再審査要請を受けた後、EB で検討されるまでの日数は概ね 5 ヶ月(150 日)程度となっている。

#### 3. 再審査の理由(指摘事項上位 5 件)

- ・ 投資分析についての指摘件数が多数を占める。廃ガス/廃熱利用についてはその他多くの理由が指摘されている。



#### 4. 却下の理由

- ・ EB61 から EB64 で却下された 8 件のうち、現時点で却下理由が公開されているのは 4 件のみ。指摘例は以下の通り。

|          |                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バイオマス利用  | ベースラインシナリオの特定について、プロジェクト実施地において利用可能なバイオマス残渣量が、プロジェクト活動を含め既に活用されているバイオマス残渣量より 25%以上多く存在すること、及びバイオマスの種類の変更に、ACM0006 の方法論に基づき適切に証明されていない。                                                               |
| 水力発電     | プロジェクト実施地における最高売電価格を適用すると、プロジェクトの IRR はベンチマークを上回る。また、投資分析で使用された売電価格が投資決定時よりも後の値になっている。DOE は投資分析において推定された売電価格の妥当性の評価が VVM ver.1.2 のパラ 111(a)(b)(c)及び EB51 で採択された投資分析の評価に関するガイドラインに準拠していない。            |
| バイオガス    | 投資比較分析及び代替ベースラインに適用された入力値の妥当性の証明が、EB51 で採択された投資分析の評価に関するガイドラインに準拠していない。また、プロジェクト開始日より後の日付の値が適用されている。                                                                                                 |
| メタン回収・利用 | 投資分析に適用された入力値が VVM ver.1.2 パラ 111(b)に準拠していない。DOE は第三者もしくは公にされたデータとの照合をしなければならぬ。プロジェクト費用と O&M 費用が別の国で実施された 9 件の CDM 案件と比較されていることの妥当性及び「プロジェクト支援費用」の妥当性が不明瞭。プロジェクト支援費用を含めない場合のプロジェクトの IRR はベンチマークを上回る。 |

<sup>1</sup> 出典: "IGES CDM 審査・却下 プロジェクトデータベース" URL: [http://www.iges.or.jp/jp/cdm/report\\_cdm.html#reject](http://www.iges.or.jp/jp/cdm/report_cdm.html#reject)

<sup>2</sup> 著者: (財)地球環境戦略研究機関 市場メカニズムグループ 研究員 鳥居 直樹 Email: [torii@iges.or.jp](mailto:torii@iges.or.jp)

### CER 発行再審査の傾向

CDM の CER 発行プロセスにおける再審査要請を受けた後、EB(第 61 回から第 64 回)で検討が行われた案件についてその傾向を分析。この期間で検討が行われたのは 3 件で、その内 1 件が却下となった。再審査プロセスに係る日数は減少傾向にある。

#### 1. 対象プロジェクト概要

|           | EB61     |              | EB62     |            |
|-----------|----------|--------------|----------|------------|
|           | 却下       |              | 発行       |            |
|           | プロジェクト数  | CER 申請量      | プロジェクト数  | CER 申請量    |
| N2O 削減    | 1        | 3,718        |          |            |
| 水力発電      |          |              | 1        | 16         |
| 廃ガス・排熱利用  |          |              | 1        | 686        |
| <b>合計</b> | <b>1</b> | <b>3,718</b> | <b>2</b> | <b>702</b> |

- 全案件 3 件中 1 件が小規模方法論(水力発電)、それ以外は大規模方法論に基づいて実施されている。

#### 2. 審査に係る日数

|           | 発行申請から再審査要請までの日数 | 再審査要請から EB での検討までの日数 |
|-----------|------------------|----------------------|
| N2O 削減    | 137              | 179                  |
| 水力発電      | 69               | 80                   |
| 廃ガス・排熱利用  | 56               | 112                  |
| <b>平均</b> | <b>87</b>        | <b>124</b>           |

- 発行申請から再審査要請までの日数、再審査要請から EB での検討までの日数ともに減少している。

#### 3. 再審査の理由

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| N2O 削減   | データの検証: 排出された N2O の係数について、IPCC Good Practice Guidance に基づき 0.27/t (アジピン酸製造 1 トン当たり)とされているが、実際の排出係数は 0.30/t となっており、DOE がどのようにプロジェクト排出量と排出削減量の計算を検証したのか説明が必要。                                                                                                                                    |
| 水力発電     | 機器の補正: DOE はホンジュラス国内の規制に基づき測定機器の補正を 5 年おきとして検証しているが、EB 58 で採択された“General Guidelines to SSC CDM methodologies”の paragraph 17 では補正を 3 年毎となっている点について指摘。また、EB 52 で採択された“Guidelines for assessing compliance with the calibration frequency requirements”に基づいて排出削減量が適正であるかどうかについて説明が必要。             |
| 廃ガス・排熱利用 | PDD とモニタリング/検証報告書の相違: PDD では年間の発電量が 869.4GWhとされているが、2009 年 10 月 1 日～2010 年 9 月 30 日のモニタリング期間中に PDD 記載値より 14%増の 994GWh となっている。PP/DOE はプロジェクトが PDD 通りに実施されており、59 日間の点検期間を差し引いても 14%の超過発電量があることについて、また感度分析が +/-10%であったことについての説明をしなければならない。<br>その他の理由: 最終版のモニタリング報告書が検証開始日より前の日付になっていることについて説明が必要。 |

#### 4. 却下の理由

- EB による検討後、却下された N2O 削減プロジェクトの却下理由として、排出係数の誤用による排出削減量の過大見積もりが指摘された。プロジェクト排出量を計算するための N2O 量の見積もりが排出係数に基づいており実際の測定値ではない。